

令和元年度 第2回 「『まち』とともにあゆむ学校づくり懇話会」 (学校関係者評価委員会) 報告

○ 日 時 令和2年2月15日(土) 15時00分～16時00分

○ 会 場 横浜市立丸山台小学校 校長室

○ 参加者 糸氏 晃子 (丸山台小学校 PTA 会長)
渡辺 雪子 (丸山台中学校 PTA 会長)
荒木 宏子 (丸山台小学校文化・スポーツクラブ会長)
鶴田 櫻 (放課後キッズクラブ主任)
大谷 英輔 (丸山台中学校副校長)
梅本 香 (丸山台保育園園長)
新井 篤志 (丸山台小学校 校長) 青柳 英樹 (丸山台小学校副校長)
田島 紀世 (丸山台小学校 教務主任) 松野 鎮 (丸山台小学校 総務部副部長)
喜多村美弥子 (丸山台小学校 研究部部長) 広瀬 美香 (丸山台小学校 指導部部長)
諸岡 文昭 (丸山台小学校 児童支援専任)



○ 内容

司会：副校長 記録：田島

1 学校長挨拶

2 学校から 説明

- ・学校評価アンケートについて (喜多村・広瀬・松野)
- ・中期学校経営方針の振り返りについて (喜多村・広瀬・松野・田島・副校長)
- ・令和2年度の主な学校行事について (田島)

3 意見交換

- ・児童数の減少により、教職員の人数も減っている。保護者も学校に関わっているという意識を持ち、協力することで、さらに結びつきを強めていきたい。
- ・児童の成長過程において、自分で出した物は自分で片づけることや挨拶などは、基本として大事なことである。学校はもちろん、家庭としても声をかけ、広めていきたい。
- ・スポーツテストの結果からも分かる体力面の低下は、中学校でも話題になっている。休み時間に外で遊ぶ子が増えており、長縄タイムなどの取組もある。意欲の面では前向きになってきているので、来年度の結果に反映されているとよい。
- ・運動技能を高めるためには、年間にわたり計画的に取り組んでいくことが大切になってくる。
- ・アンケート結果では、いじめの対応について保護者と教職員とで結果に差がある。学校での取り組みが保護者に分かりにくい(伝わりにくい)面がある。学校では、ささいなことでもいじめと捉えて、専任と共に対応している。学校と家庭とで情報共有し、連携することが大事である。
- ・学校や保育園では、食の危機管理に神経を使っている。アレルギー対応では、細部にわたって保護者と確認している。また、食材の検品や調理器具の点検などを丁寧に行っている。
- ・保護者と教職員との関係を丁寧に積み重ねていくことが大事。見えないこと、分からないことは不安につながるので、細やかに伝えていきたい。

<土曜参観 アンケート結果>

- * 大勢のご参観、ありがとうございます。いただいたアンケートから抜粋してご紹介します。
- ・しっかり前を向いて話を聞いている姿を見て、昨年までは保育園だったのに、成長を感じました。
- ・皆、発想力があり、思っているより難しいことができるのだな、と思いました。
- ・1年間の出来事の発表から、子どもたちがどのように感じ、どう成長したのかがよく分かった。
- ・思っていた以上にしっかりと希望や考えをもっていることにびっくりし、感心しました。
- ・「誰が」という視点で子どもたちが考えた意見は、ここまで知識があるのかとびっくりしました。
- ・人前でしっかりと話す姿がとても頼もしく、親としてもうれしく思いました。成長を実感しました。